

The main title of the article is "ゴルフ文化産業論" (Golf Culture Industry Theory), written in large, bold, black vertical characters on the right side of the page.

## 闘う弁護士・西村國彦の

1 ゴルフ会員の危機

時は、ゴルフ会員権が紙切れに

時60歳)だった。

バーの会を立ち上げてしまつたのだ。  
人任せで「誰かが助けてくれる」

二。  
くれた。おかげで、その後銀行系や上場会社系が、会員のいるゴルフ場競売を強行することはなくなつ

5万人会員募集の茨城CC事件発生翌年、1992年(平成4年)。バブル紳士小谷光浩氏がつくつた東相模GC(山梨県)が破産と競売の危機を迎えていた。

同時進行していたのが、オリックスが数百億つぎ込んでいた真理谷CCの競売事件。こちらでは、オリックストップの宮内社長が、競売落札の日から会員は会員でなくなると公言していた。

会員権消滅の危機を知った東相模の会員たちは、2000名を超える会員たちに電話をかけまくつていた。その中心にいたのが、ゴルフを生きがいと感じ始めていた小さな広告会社オーナーのM氏(当

た詰にかりりだつた  
でも私が、ゴルフ場につけられた抵当権設定時期が倒産時期と重なっていることを会員全員にアピールし、会員の団結を呼びかけたらどうか、費用も一人3万円くらいなら集まるのではないか、と提案したら、「わかつた、やるしかない」とM氏。

その日から、M氏の超人的活躍が始まった。私の授けた作戦で入手した会員名簿を頼りに、仲間が電話作戦を繰り返すのと並行し、自分でも会員たちに電話しまくったのだ。

仲間の数は、瞬く間に拡がって、何と1ヶ月で1500名、3ヶ月で2500名(組織率8割)のメン

「にどんなメリットがあるのか」を聞きたがる会員たち。そんな彼らに対し、辛抱強く、放置すれば誰も助けてくれないゴルフ場会員の危機を、自分の問題として対応するよう説得してまわったのだ。

世間にアピールできる闘いのアイデアにあふれた彼は何と、テレビに美しく映える女性会員たち主導のデモ作戦を企画したのだった。

百数十名のカラフルなテレビ映りのよいデモは、数百名規模のデモに見えるのだ。

この作戦は見事に成功。NHKが1日3回、全国ネットで統率の取れた美しいデモ行進を放映して

オリックスのように、違法でない限りぎりぎり何でもやるというのは、実はコンプライアンス上も企業の社会的責任上も、問題なのだ。リース会社というのは、銀行と違い、ノンバンクの発想で動くためか、荒っぽい会社が多い。

昨年起きたゴルフスタジアム事件など、本年のスルガ銀行事件と比較して、リース会社対応は被害者たちに厳しいものがある。

7年の年月をかけ、この破産事件で東相模GCは、会員と銀行系子会社が再建資金を負担し、抵当権つき預託金制度を採用してゴルフ場を再生できた。私の出発点となる記念すべき事件だった。

どうしたら社会を変えられるか  
…ゴルフ界を変えるには…



西村國彦（にしむら・くにひこ）

お酒は飲めないしカラオケも駄目の営業下手の弁護士。そんな男が40歳を迎える年、ゴルフを始めたことから人生も性格も激変。ゴルフ大好き仲間を求めるオデッセイになつて、世界を放浪。ゴルフエッセイも書く傍ら、法的に弱いゴルフ場会員たちの権利を守るために、「新理論」を構築。ハゲタカ外資にも正面から闘いを挑み、撃破。最近、ジャズの世界も覗いている。日本ゴルフジャーナリスト協会理事。



## 千葉のボランティア塾活動

50歳から、千葉のゴルフ場のある街大網白里に移住。千葉と東京を往復する生活を始めた。この街に野老(ところ)真理子さんという、不動産会社社長(大里綜合管理)がいる。大里が取り組むボランティア活動は、330種類。「やりがい」と「生きがい」を求めて全国から若者が集まる会社だ。大里で私は、彼女に頼まれ塾長として、「闘いの現場

からの実況中継」をやっている。  
野老社長の関心は、法的にはあきらめるしかないと  
言われている問題について、何とか途を切り拓いてい  
く私の仕事のやり方。  
彼女は、全てに全力で立ち向かう。彼女には、日本人  
にありがちな「誰かがやってくれる」という感覚は全く  
ない。スタッフたちも、社長の指示なく、自由に動き回  
る。  
日本のゴルフ界にも、野老社長を登場させよう。

その一つは、会員たちは、個々に分断されている限り、情報を共有できないため、不満を述べるばかりで運動にはならず、最後はみんな諦めてしまうからだ。

わが国では、確かにフランス革命のような市民の流血を伴う変革がない。バブル経済崩壊後の日本で、経済・政治・文化いずれの場面でも、日本人からは、グローバルな流れにおいていかれているという危機意識が全く感じられない。

ジョン・ダワーの「敗北を抱きしめて」上・下(2001年、増補版 2004年岩波書店)やディヴィッド・ピリング著「日本一喪失と再起の物語 黒船、敗戦、そして3・

そして選挙になると、そのトツ  
プやその支援者たちが再選されて  
しまう現状に対し、市民たちが最  
後まで諦めないで、変革を実現し  
ていかないと、社会を変えるこ  
とは出来ないと思う。

ゴルフの世界でも、バブル経済  
崩壊後10兆円と言われる預託金が  
消滅していった時、同じことが起  
きた。

一方では、彼らの面前で、ゴルフ  
ドマンサックスなどが労せず巨額  
の利益を得ていた。他方で全国の  
ゴルフ場会員たちは、一瞬怒りを  
表明はするものの、すぐ外資や日

心のゴルフ場再建が実現できた事例がいくつかはある。しかし、5以上のゴルフ場を保有する大手ゴルフ場グループでは、破綻の構図が理解しにくいことから、会員たちは団結を形成できず、ハゲタカ外資たちのエジキにされたといつてよい。

千葉のボランティア塾活動 50歳から、千葉のゴルフ場のある街大網白里に移住。千葉と東京を往復する生活を始めた。 この街に野老(ところ)真理子さんという、不動産会社社長(大里綜合管理)がいる。	からの実況中継を野老社長の関心は言われている問題く私の仕事のやり方彼女は、全てに全力にありがちな「誰か」ない。スタッフたちる。
大里が取り組むボランティア活動は、330種類。「やりがい」と「生きがい」を求めて全国から若者が集まる会社だ。 大里で私は、彼女に頼まれ塾長として、「鬨いの現場	日本のゴルフ界に

**2 最後まで諦めないことを忘れてないか?**

「上・下（2014年早川書房）は、外国人からの日本総括である。このことは、島国日本の政官財学のすべてのトップたちが、フランク・アメリカ、中国はじめ先進諸国がすべて自然エネルギーへの方針転換を明確に行い始めているの

CCC(整理回収機構)の、破産するよりはプレー権確保をというキヤンペーンを受け入れてしまったのだ。

やっている。  
法的にはあきらめるしかないと  
ついて、何とか途を切り拓いてい  
で立ち向かう。彼女には、日本人  
がやってくれる」という感覚は全く  
社長の指示なく、自由に動き回  
野老社長を登場させよう。

百数十名のカラフルなテレビ映りのよいデモは、数百名規模のデモに見えるのだ。

この作戦は見事に成功。N H K が一日3回、全国ネットで統率の取れた美しいデモ行進を放映して

者たちに厳しいものがある。  
7年の年月をかけ、この破産事件で東相模GCは、会員と銀行系子会社が再建資金を負担し、抵当権つき預託金制度を採用して「ゴルフ場を再生できた。私の出発点となる記念すべき事件だった。